

北本市の緑豊かで快適な生活環境を維持しつつ、少子高齢社会にも柔軟に対応可能な『市民をむすぶやさしい庁舎』を実現します。
また、豊かな自然と都市環境が共存するまちの中心に、市民の『ふれあいと交流の森』をつくります。

地域で考える配置計画

『市民交流』と『安心・安全』の2本軸 を実践する配置計画

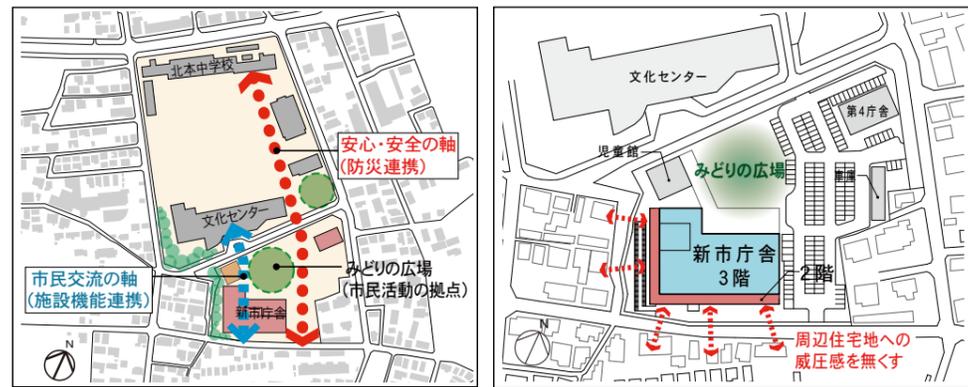
- 市庁舎と文化センターを結ぶ市民交流の軸を歩行者ネットワークとして整備し、各施設の有機的な連携を目指します。
- 従来の防災施設に市庁舎『みどりの広場』が連携することで防災拠点の性能を大幅に強化します。

周辺環境に配慮した低層市庁舎

- 周辺部は2階建て、中央部は3階建てとし、周辺住宅地への威圧感をなくすことに配慮します。
- 隣接する3階建ての文化センターや北本中学校とのバランスを保ちつつ、低層の良好な街並み空間を維持します。

周辺施設、外部広場と結びつく配置計画

- 屋外広場や市民ホールなどの様々な市民活動スペースを各所に確保し、市民のためのコミュニケーション創りを支援します。



『市民交流』と『安心・安全』の軸

周辺環境に配慮したボリュームイメージ

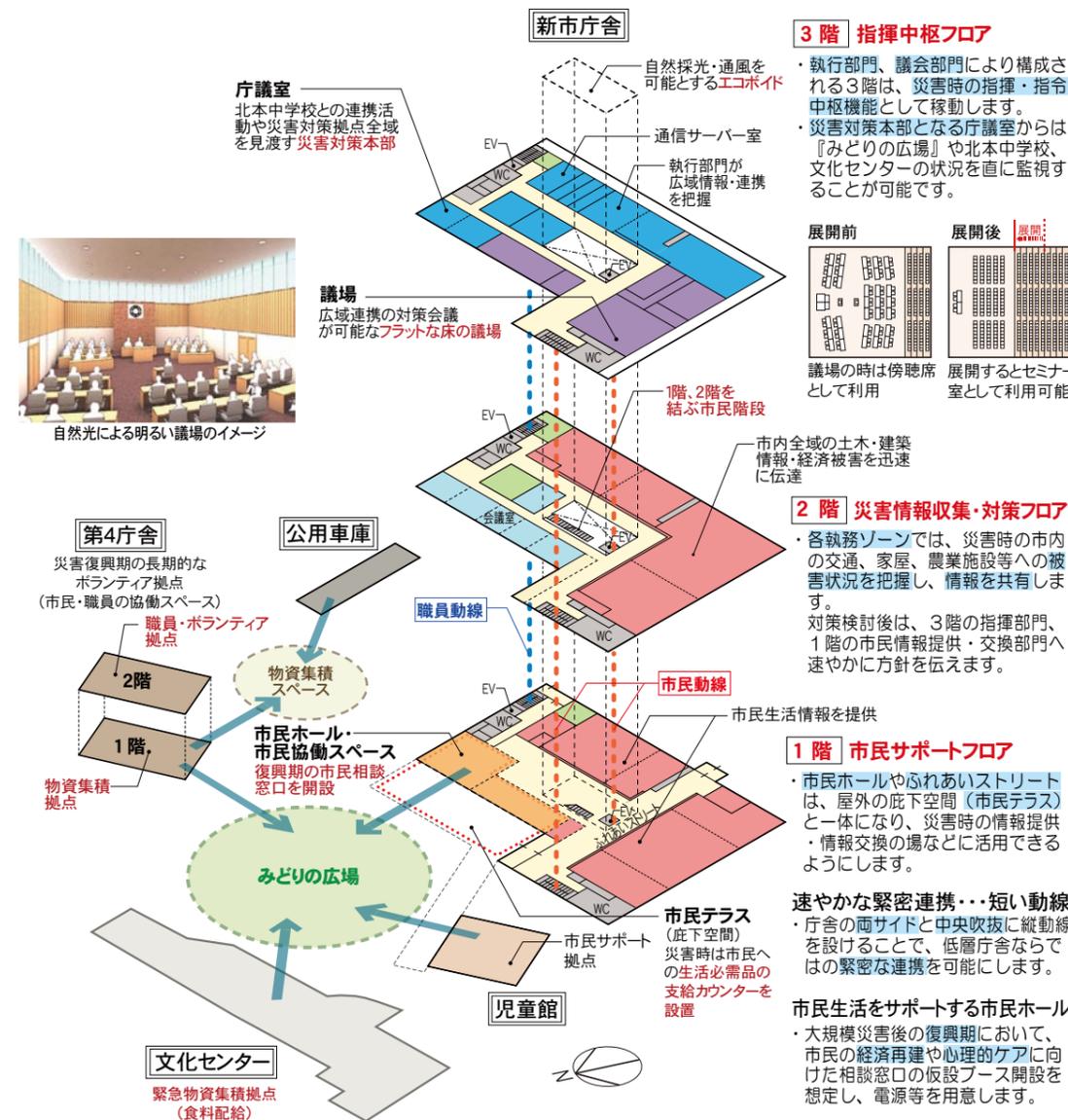


周辺施設および外部広場と結びつく配置・動線計画のイメージ

※この技術提案概要書は、基本設計者を特定するために実施したプロポーザルで、基本設計についての考え方を記載したものです。具体的に庁舎の位置や規模等を決定するものではありません。

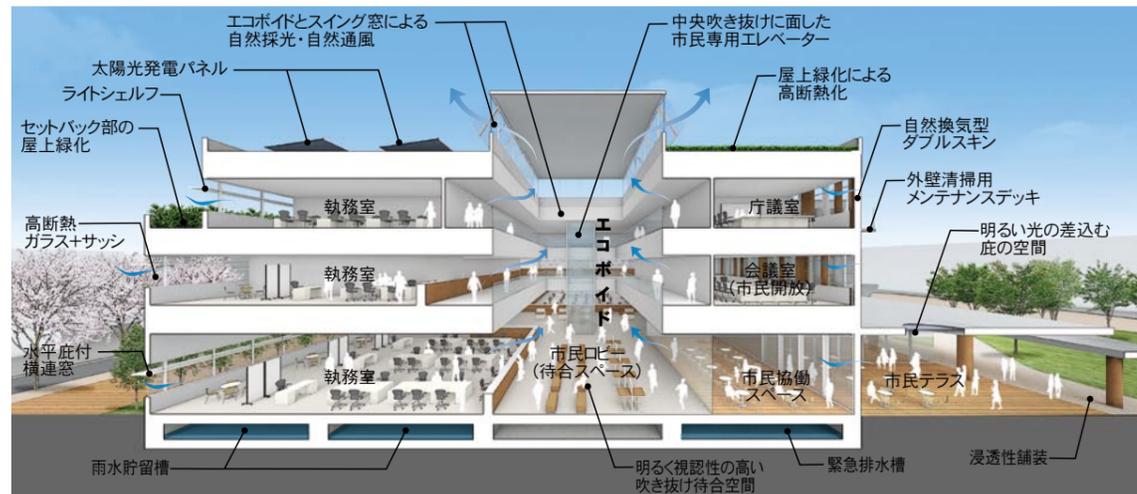
速やかな防災活動が可能な低層庁舎

災害時の緊密連携を可能にする低層庁舎（イメージ図）



低層庁舎による環境計画

機械設備に頼らない自然体の庁舎（イメージ図）



高い安全性とコストパフォーマンスの庁舎

高い耐震性能の有する防災庁舎

- 鉄骨造による『低層高耐震フレーム』で構成される低層庁舎は、官庁施設の総合耐震設計基準におけるⅠ類の最高ランクを実現します。
- 非構造部材や建築設備についても災害時にも機能する庁舎づくりをします。

災害時に万全な備えを有する防災庁舎

- 重要な機器やサーバーが設置される室や防災機器室などの重要室は、床免震システムを導入し、災害直後の機能維持を図ります。

仮設庁舎をつくらない『低層庁舎』で大幅なコスト削減と工期短縮が可能

コストを抑えながら高い品質の庁舎をつくる

- 鉄骨造3階（一部2階）建て庁舎により、建設コストを抑えながらも、高い耐震性能を有する新庁舎を実現します。
- 施設内容の分析による規模の最適化と鉄骨造工法の選択に加え、仮設庁舎をつくらないことで、最短の建替え完了を実現します。

低層化による面積削減効果

- 建物の階数を少なくすることで、階段や通路などの共用部面積を最小限とすることができます。
- 建物を低層に抑えることで自然光を採り入れるエコボイドの建設コストも最少限にとどめます。また、建物の低層化は外壁面積を減少させ、外装コストを削減します。

ランニングコストの削減案

長寿命・高効率で維持管理が容易な庁舎

ランニングコストの削減

- 地域の気候特性を考慮して、外壁の高断熱化に加え、外窓に高遮断高断熱複層ガラス（LOW-Eガラス）を用い、外部負荷の影響を最小限にしながらランニングコストを抑える計画とします。
- きめ細やかな運用と同時に、イニシャルおよびランニングコストを低減し、さらに大きなCO2削減を可能とする個別熱源方式を採用します。
- 節水型衛生機器の採用や雨水再利用システムを導入し、上水使用量を削減します。

メンテナンスコストの削減

セルフメンテナンスが可能な庁舎

- 長寿命な照明器具のLEDを採用し、取替え・更新の費用がかからない計画を目指します。
- 庁舎の窓ガラスは全て室内側から清掃できる計画とします。バルコニーやメンテナンスデッキなど、各々の場所において安全な清掃環境を整備します。職員による清掃、メンテナンスを前提とした施設計画とします。